

学年	高校3年	教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	7
教科書名	詳説 日本史 (山川出版)			副教材名	新詳日本史 (浜島書店) 詳説日本史スタンダードテスト (山川出版社) 日本史用語集 改訂版 (山川出版社) 詳録新日本史史料集成 (第一学習社)		
コース・クラス	進学コース N進学クラス 文系						

I. 目標

1. 列島内の人々の歩みを学ぶだけでなく、我が国と諸外国や諸地域との関係を基本的な枠組みの中で理解する。数多くの事象を題材に用いて歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
2. 基礎知識の定着と、変わる入試にあわせ、身につけた知識を活用し多角的な視点で物事を考えられる力を養う。
3. 基礎学力到達度テスト7割の得点を目指し、大学入試共通テストや一般受験にも対応していける基礎力を身につけていく。

II. 授業のねらい

1. 通史に対する把握・理解を促し、生徒各自が自分なりの歴史を見る目を養うとともに、諸種の問題演習を実施することで、基礎学力到達度テストで着実に得点できる基礎力・応用力を身につける。
2. 講義型の授業に加え、アクティブラーニング型授業も適宜取り入れることで多角的な理解を図る。また、より深い理解を得るためにICT教材も積極的に使用して、基礎的項目の確認だけでなくさらなる興味関心を喚起する。

III. 授業の進め方

1. シラバスに沿った授業展開を基本とする。
2. 一定の小単元のまとまりごとに小テストを実施する。
3. 7単位時間のうち、適宜講義と演習を実施していく。とくに9月末の基礎学力到達度テストまでは、同試験の出題範囲の学習に重点を置き、2年次に学習した内容の演習も行っていく。

IV. 学習上の留意点

1. 大まかな基礎知識で通史の軸をつくってから、細かい知識を追求していくように意識すること。
2. 用語の暗記のみではなく、様々な出来事の因果関係を意識しながら、自分の言葉や図表に置き換えて理解すること。
3. 板書の書き写しだけでなく、授業内の解説から要点を聞き分けてメモを取り理解を深める努力をすること。
4. 主体的に復習に取り組むこと。その際には、時代ごとの特徴を整理しながら学習に取り組み、一度に広範囲の時代の学習に臨むのではなく、適宜小さな区切りを設けて取り組むこと。

V. 定期試験

- 1 学期中間試験 : 織豊政権 ~ 幕政の安定
- 1 学期期末試験 : 経済の発展 ~ 化政文化
- 2 学期期末試験 : 開国と幕末の動乱 ~ 冷戦の終結と日本社会の変容

VI. 評価の方法

各学期の定期試験、小テスト、提出物、課題などの総合評価。

